

鴨沂高校同窓会報 第10号

発行：京都府立鴨沂高等学校同窓会 〒 602-0856 京都市上京区荒神口通り寺町東入ル荒神町 105 鴨沂会館内
TEL(留守電)& FAX 075-212-4445 ohkidoso@yahoo.co.jp <http://www.geocities.jp/ohkidoso/>



同窓会活動の報告

京都府立鴨沂高等学校同窓会 会長 上野 民夫

同窓会長に就任してから 2 年半が経過しました。

皆様もご承知の通り、鴨沂高校は校舎の耐震化と全面改築のために昨年 9 月、仮校舎に移転して授業が行われています。仮校舎は上京区の相国寺と隣接する元京都産業大学附属中・高等学校の敷地(以前は京都成安女子学院)で、同志社大学に近接する清閑な住宅地区にあります。在校生は平成 28 年 8 月に完成予定の新校舎での授業の再開を心待ちにしながら勉学に励んでいます。

新校舎の基本設計案が決まり、改築工事は本年 5 月より開始されました。その経緯は、京都府教育庁管理部、鴨沂高等学校ならびに鴨沂高校同窓会の HP に掲載されていますが、同窓会からの対応の概要は、以下の通りです。

改築にあたっては、地震発生時に生徒と教職員等を守る安全で充実した教育施設となることを第一と考え、現校舎を全面改築して抜本的な耐震化と整備を図る。九条家遺構の正門や鐘の保存、伝統芸能や文化活動ができる講堂の設置、茶室の遺構を残した和室の設置、校舎中央正面の雰囲気と図書館を残す設計などについてこれまでに要望を伝えてきたところです。これらの同窓会からの要望は、京都府教育庁が公開で主宰した 3 回の「鴨沂高等学校校舎等整備に係る意見聴取会議」と 4 回の在校生・教職員・同窓会とのワーク

ショップの結果、基本設計に十分に反映されていることをお伝えします。

このような状況にあって、同窓会理事会は母校の発展に寄与すべく同窓会の活動強化について検討を続けております。今期および次期の活動で最も重要な課題は、『校舎の全面改築が遅滞なく円滑に工事が進行して計画通りに落成し、平成 28 年度秋季より耐震・防災性能を備えた新校舎で授業を再開して、本校が所有する文化遺産を保存・継承してさらに拡充しつつ、新生鴨沂高校としての高い教育目標が達成できる』ように協力支援することにあります。

現在同窓会は、仮校舎での教育活動、旧校舎の解体・埋蔵文化材の発掘・新校舎の建設・新校舎への帰還・新生鴨沂高校の教育活動等の事業を迎えて、同窓会員に進捗状況を的確に伝え、会費並びに寄付による支援活動を実行すべき時にあります。

昨年には NHK 大河ドラマ「八重の桜」で本校の前身である女紅場と府立第一高等女学校が紹介されたことも週刊エコノミスト紙の「名門校の校風と人脈」に本校の記事が掲載されたことも鴨沂高校の伝統と今後の発展に大きく寄与するものと考えます。

今回の全面改築は昭和 8 年に本館と体育館等が建築されて以来の 80 年に一度の大事業でありますので、同封の募金趣意書にご理解を頂き、同窓生の皆様の同窓会から母校へのご支援をお願いする次第です。

2014(平成 26)年度

京都府立鴨沂高等学校同窓会 総会開催

日 時：2014(平成 26)年 11 月 9 日(日) 15 時 30 分～ 受付

会 場：ウェスティン都ホテル京都 山城の間(東館 2F)

京都市東山区三条けあげ(TEL 075-771-7111)

●くわしくは本誌最終ページをお読みください●



鴨沂高校では校舎の耐震化事業を実施しており、この度、基本設計における施設配置計画を策定しましたので、御報告します。

府立学校施設では平成 28 年度までに耐震化率 100%となるよう取り組んでいます。鴨沂高校の校舎は必要な耐震性能を満たしていないため補強による耐震化を検証したところ、非常に増大な補強が必要であることが分かり、校舎の耐震化と建築物としての歴史的な価値を継承することができる計画を策定するために、外部有識者を含めた意見聴取会議により整備のあり方について御意見をいただき、設計者を特定しました。

生徒を主体に、保護者・教職員・同窓会の方々を含めたワークショップを4回開催して、鴨沂高校の良かったところや未来に残したいところ、具体的な活用方法、新しい学びのイメージ等について話し合いました。出された意見を取り入れながら、歴史の継承と安心・安全な施設整備を両立する新しい鴨沂高校としての基本設計を行っています。

	平成 26 年	平成 27 年度	平成 28 年度
北敷地	解体・体育施設整備	グラウンド利用 体育施設整備	グラウンド利用
南敷地	解体	新設・耐震補強	9 月から新校舎へ 移転

※平成 25 年 8 月から仮校舎に移転済、平成 28 年 9 月に新校舎に移転・使用開始予定



明治5年創立の「新英学校及び女紅場」から受け継ぐ
伝統と歴史を継承した新しい学校づくり

・京都文化を発信する……学習成果発表会、地域への提言、外国人を案内、など

②多様な学習方法を取り入れた「質の高い学力」の育成

- ・フィールドワーク、体験実習等など、生徒の能動的な学習
- ・ICT（情報通信技術）を活用
- ・大学、公的機関、企業など学校外の諸機関と連携

③目標に応じた学習環境づくり

- ・コース別クラス編制
- ・7時間目授業を設定
- ・土曜学習会の実施

施設の概要

①多様なニーズに応える教育活動を実現する新しい施設

- ・習熟度別授業が可能となる、少人数教室や多目的教室を各階に配置
- ・図書室を中心に学習メディアセンターを配置し、学習支援機能を充実
- ・水泳競技（水球・シンクロ等）の拠点校として、温水プールを整備

②歴史的・文化的価値の継承

- ・外観意匠及び内部空間が特徴的な本館棟の保存・改修
- ・九条家ゆかりの正門、旧図書館の保存・改修を通して、寺町通からの景観に配慮

③環境・災害対応、安心・安全な教育環境

- ・保存改修校舎は改修により耐震性を確保し、スロープ・エレベーター等によるバリアフリー化、新築校舎は自然の風や光を取り入れた建物形状に配慮



鴨沂高校の近況について

京都府立鴨沂高等学校 副校長 中田佳代子

平素は、本校の教育推進に御支援をいただき誠にありがとうございます。平成25年度から副

校長を拝命いたしました。鴨沂高校の教育活動充実のため、微力ではありますが努力いたします。何卒よろしくお願いいたします。

さて、平成25年度は、学校にとって大きな節目の年となりました。この年に入学してきた生徒から制服を導入し、鴨沂の長い私服の歴史に変化が訪れました。伝統ある講堂に全ての入学生が同じ服装で整列するという入学式は、同窓生の皆様にとっては御想像いただけないものかもしれません。また、夏には住み慣れた荒神口の校舎から鞍馬口の仮校舎に引っ越しをしました。既存の建物の中に学校全体が移動するというケースは、京都の府立高校では初めてのことでないかと思えます。2学期が始まってしばらくの間は、慣れない校舎での学習に若干の戸惑いを感じていた生徒たちですが、さすがに若さです。1か月を過ぎる頃には新しい環境に順応し、落ち着いた状態で毎日の生活を送るようになりました。

平成26年度を迎え、1・2年生という2学年の生徒が制服姿になり、私服は3年生だけになりました。その私服の3年生も校長からの「鴨沂の長い私服の最後

を飾る学年」という言葉を受け、誇りを持って毎日を送っています。昨年度同様、1年生は自分の制服姿を卒業中学校に見せに行くこともあり、後輩からは鴨沂の制服は格好いいと褒めてもらっているようです。校外を歩いていても、一目で鴨沂高校の生徒だということがわかるようになりました。自分たちの姿が学校のイメージをつくるのだということを自覚し、責任のある言動をとることのできる生徒に成長してほしいと願っています。同窓生の皆様も鴨沂高校の制服を着ている高校生をお見かけになれば、ぜひ励ましの声をかけてやってください。

クラスについても、ミックスホームルームから自分たちの希望する進路に応じたクラス編制に変わりました。1年生は高校生活にも慣れ、新しくできた友人と楽しそうに毎日を送っています。2年生は、自分の将来について担任や保護者と相談しながら、真剣に考えだそうとしています。3年生は、クラスの仲間同士切磋琢磨しながら、進路希望の実現に向けて努力をしています。どうか、鴨沂高校の生徒たちを今後も温かく見守っていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、同窓会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝を心よりお祈りいたします。



今後の鴨沂高校に期待して

京都府立鴨沂高等学校 前校長 山岸 忠

平成 26 年度鴨沂高校同窓会総会が盛会のうちに開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

また校長在任中には、同窓会長様はじめ皆様方から大きな協力とご支援を賜り改めて感謝申し上げます。

私の在任中は、京都府の公立高校において様々な改革が進み、その改革推進計画も仕上げの時期だったと認識しております。我が国でも有数の歴史を誇る伝統校の鴨沂高校におきましては、着任以来その輝かしい歴史を振り返るたびに、現状を鑑みて改革・改善しなければならない点が多々あると感じていました。折しも平成 25 年度から、戦後長く続いた総合選抜から単独選抜への変更となる時期とも重なり、乙訓地域を含む京都市全体の各公立高校にとっては、制度変更に伴って明確な将来像を描き確固たる展望をもった特色ある学校づくりをしなければならない時でした。

そのような状況の中、特に鴨沂高校においては抜本的な学校改革が喫緊の課題でした。校長としてこの時期を逃すと本校の将来に大きな禍根を残すと考え、関係の皆様にご協力をお願いし、様々な改革に着手した次第です。制服導入もその改革の一つでありました。導入にあたっては教職員、在校生、PTAそして同窓会の皆様に導入の目的、意義等を校長自ら説明し理解を得るため、できる限りの努力をしたつもりです。

鴨沂高校は、最近まで制服のない学校として歩んでまいりました。また、制服がないことを誇らしく思う方も多くおられることも承知しておりました。しかしながら高校進学率が 99% に達する現状の中で、高校に求められる役割も多様化し、社会状況や世界情勢も大きく変化し、生徒・保護者の意識もかなり変わってまいりました。制服導入の大きな目的は、制服を着用することによって鴨沂高校生としてより強い自覚をもち、勉学に一層励み、高校生活全体に全力で取り組めるような環境づくりでした。高校時代は、将来生きていく上で、高い学力を付け、豊かな人間を形成し、社

会に有為な人材になっていく極めて重要な時期であります。制服を着用することによって、学校は「学ぶ場」であり、多くの他の生徒との「共同生活の場（小さな社会）」であり、将来への「キャリア形成の準備の場」であることを、生徒諸君が強く意識することを期待したわけです。もちろん高校生の成長が、制服導入だけで達せられるわけではありません。教育内容の充実、施設・設備の改善、教職員の一貫した指導体制等が相まって、鴨沂の教育が発展するわけではありますが、中でも制服導入が目標に向かう上での大きな転換に繋がると考えました。また、生徒募集においても、「選ばれる学校づくり」を目指すうえで重要な要因になると考えたのも理由の一つです。現在、鴨沂高校の制服は、在校生が喜んで着用し、各方面で好評だと伺っております。

また、制服導入後、学校全体で他の様々な改革が一層進み、将来の発展に大きな希望を抱かせる状況になっており、私も鴨沂高校の今後に大いに期待する次第であります。

具体的に鴨沂高校の将来に期待することは、名実ともに「名門校の復活」であります。鴨沂高校は今日に至るまで多くの優秀な卒業生を輩出してまいりました。実業界、学問・教育の場、芸術文化の分野、政界、国際社会等、各界で活躍し社会に多大の貢献をされてきた同窓先輩が数多くおられます。名門校とは、生徒一人一人が誇りをもって生き生きと充実した高校生活を送ることができ、実力と見識と豊かな人間性を備えた生徒を育て、各界で活躍する人材を社会に送れる学校であると考えます。今までの鴨沂の教育の良き伝統を踏まえ、これからの時代のニーズに合わせた新しい教育を創造し、有為な人材を育ててほしいと願っています。

結びに、鴨沂高校の今後の発展を期待するとともに、鴨沂高校同窓会のますますのご発展と会員のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

公益社団法人京都鴨沂会について

公益社団法人京都鴨沂会 代表理事(会長) 速水 醇一

京都御所に近く、京都府立鴨沂高等学校、鴨沂高等学校同窓会、京都鴨沂会（正式名は公益社団法人京都鴨沂会）と「鴨沂」の名を冠した 3 つの独立した組織が地域的にも真近にあって、それぞれ組織的に全く独立した存在として、異なった活動を行っています。

この中で最も早く「鴨沂」名を名乗ったのは、公益社団法人京都鴨沂会の前身である、社団法人京都鴨

沂会で 1909 年明治 42 年のことあります。それ以来 106 年の間に時代とともに法人呼称を変えながら、2013 年（平成 25 年）4 月 1 日以来公益社団法人となった京都鴨沂会は、教育助成・生涯教育・更にこれらの社会活動にあたるボランティア養成を行う団体として活動を行っています。

筆者の母校でもある現在の京都府立鴨沂高等学校は

1948年10月に誕生し、同校卒業生を主構成員とする同窓会は1949年3月に発足しているのですから鴨沂の名が社会的に認識されたのは京都鴨沂会をもって最初としなければならないでしょう。

一方公益社団法人京都鴨沂会の構成員、特に会の事業の担い手となっているものの多くが京都府立鴨沂高等学校となんらかのつながりをもっているのも事実であります。鴨沂高等学校在学中に母校の特徴でもあった、学内外の能動的な活動を行った人々が公益活動によって社会に貢献すべく集っている法人であります。その意味では京都府立鴨沂高等学校同窓会の皆さんが京都鴨沂会に入会され社会活動に参加して下さるのを大歓迎致します。

あるいは生活を楽しもうと見方を換えて、京都鴨沂会が運用している伝統文化教室に参加され、華道・茶

道・書道・謡等を楽しんで頂くのも歓迎します。この分野では外国からの留学生の参加を勧める活動も行っていますから、それに参加され或いは文化教室の指導者として御参加下さる他、高齢者施設での文化面の実地サービスを担うボランティアとして活躍して下さいのも大歓迎です。但し、先にも述べましたように、京都府立鴨沂高等学校同窓会とは組織的なつながりのない、相互に独立した活動体であることを御含み下さい。

京都鴨沂会では旧制後期中等学校卒業生から、新制高校1期卒業生を経て55期卒業生まで広い年齢構成の会員が元気に活動しています。年齢・時代を超えた情報交換の場としても御利用下さい。京都鴨沂会会員が無料で利用できる談話室もあります。

(鴨沂高校3期卒業生 元化学部・生物研究会部員)

皆様へご挨拶

京都府立鴨沂高等学校同窓会関東支部 支部長 加藤 啓

鴨沂高校同窓会関東支部長・19期加藤啓です。前支部長・15期芝原央充様より2012年6月に開催された関東支部同窓会（第8回）以降の支部長の役割を託され、事務局長・19期吉川能信君とともに各期幹事の皆様のご協力をいただきながら運営しております。2014年6月7日に開催された支部幹事会で、関東でも3年毎に開催されている同窓会を2015年6月に第9回を開催することを決定いたしました。早速、準備会を発足させ開催に万全を期したいと存じます。また同時に鴨沂高校校長藤井先生よりご相談いただきました2015年6月に予定されている鴨沂高校2年生の関東修学旅行において関東在住の卒業生との交流を希望されている件にも何らかの具体的有効な案を提示することができるよう準備をすすめています。

ところで関東でも1期の皆様がすでに80歳代半ばとなり関東支部発足当時（1990年）40歳代だった我々19期が60歳代半ばを過ぎるという幹事会の高齢化解消は喫緊の問題であります。関東支部に出席いただいている各期幹事は今のところ23期が最年少であり、

今後如何にして後輩の皆様に引き継いでいけるか模索してまいりたいと存じます。もちろんこの問題は高校卒業生名簿の提供などの協力なしには解決できないものであり京都の本部には今後更なるご高配をたまわりますようお願いいたします。

さて私は関東在住46年目となり現在は茨城県つくばみらい市という田園地帯に最近開発された郊外住宅地に住まいを求めております。散歩が趣味で休日ごとに近隣にでかけています。そこでいつも思います。高校時代に友人たちと出かけた散歩・吉田山から真如堂、黒谷。学校帰り・御所、鴨川のほとり。桜の咲くころ・哲学の道、法然院から南禅寺。京都はなんと散歩道に恵まれたところであろうかと。また散歩をともにした友人たちとの語らいは現在でも私の思考の原点であります。京都に生まれ青春時代を過ごせたこと特に鴨沂高校での経験は私にとって人生の至宝であると思います。そのような母校と同窓会に私の微力を尽くせたら幸いです。

会費納入のお願い

2000（平成12）年より同窓会財政の健全化を目的として会則に基づき、みなさまへ会費納入のご協力をお願いしてまいりましたところ、お蔭様で母校への思いが少しずつ届けられるようになり、会費が納められるようになりました。ですがその数は全体から致しますと、まだまだ少ない状況です。今後の同窓会のより一層の発展と確かな財政基盤を確立し継続していくために皆様のご協力をぜひお願いします。**年会費は2,000円（会則第12条）**ですが、総会開催及び会報発行が3年ごととしておりますので、できれば**3年分6,000円**を納入いただけますと大変有難いです。なお、ご送金はこの会報10号と同封のゆうちょ銀行送金用紙「払込取扱票」をご利用いただきますと幸いです。よろしくお願い申し上げます。

（同窓会事務局）

学 年 報 告

1951 (昭和 26) 年 3 月卒 : 3 期生 報告

岩佐 氏昭

昨年の 3 期の同期会は前年同様 10 月 15 日という日取りで京都ホテルオークラに 100 人あまりが出席して実施しました。今年は全員が 80 歳を過ぎました。

昭和 23 年、学制改革に伴いわれわれがああ校舎に初めて集まり「鴨沂高校一年生」としてスタートした日が 10 月 15 日であったことを同期の天野城二君が調べてくれました。その結果がこの三期会の実施日に相応しかろうというコンセンサスが何となく出来上がり、以来この日に開催しています

幹事は卒業時 18 組あった中から男女各 5 名ずつが前年の同期会には選ばれているというルールになっています。しかし昨年は年初に幹事の一人が残念ながら帰らぬ人になりました。

さて母校は校舎の建て替えが決まり取り壊しが始まるようですが、それにつけて気に掛かるのは文化財調査のことです。京都では特に平安京の中では地下に係る工事であれば必ず埋蔵文化財の発掘調査があります。

我々が「北運」と呼んでいた地域の南側（荒神口通り）の堀の窪みに説明板が設置され「是より東北 法成寺跡……藤原道長が営んだ寺院で 道長が御堂関白と呼ばれ、その日記が御堂関白記の名で残されている所縁の建物があつたところ」との趣旨が書かれていた様に思います。

南側の校舎の場所も含め法成寺とそれに関わる遺跡調査でどの様な成果があるか楽しみなことであります。

1952 (昭和 27) 年 3 月卒 : 4 期生 報告

藤野 英雄

「同窓生の絆とは・・・」

私は京都に生まれ、今もずっと京都に住み、しかも同じ所にずっと住んでいるにもかかわらず、小学校、中学校、高校を通じて、戦時中の集団疎開も含めて 9 回通学する学校を変えています。昭和 23 年当時の教育制度改革の時期でもあり、新制の中学校ができて、旧制の中学生も残っており、生徒の数によって通学区をその都度変更せざるを得なかったことにもあります。

旧制中学 3 年になる時に、旧制はなくなり新制高校併設中学 3 年生として高校に編入になりました。その年の 10 月に再度高校制度の改革があり、総合制、地域制、男女共学の三原則により、高校の再編成が行われました。この時に旧洛北高校併設中学 3 年生から鴨沂高校併設中学 3 年生に変わりました。この時には京都に明治 2 年からできた番組小学校を基本とした自治組織の元学区によって、高校の通学区が決められています。

更に私が高校 1 年になる時は、住んでいた元学区の通学区の変更により堀川高校区になり、その後 2 年

になる時は再度の通学区変更により、鴨沂高校になったのです。他の高校でも隣接通学区の関係で、通学する高校を変更させられた人もあったようです。

ということで、私は旧制中学から高校にかけて、旧京都一中から旧洛北高校、堀川高校、鴨沂高校で 6 年間あちこちで学校生活を送り、鴨沂高校卒業ということですが、各校に同窓生がおり、同窓会とは何ぞやと、今さらながら考えさせられることも多いのです。

1955 (昭和 30) 年 3 月卒 : 7 期生 報告

杉山 京介

「京都を盛り上げる同窓生たちの活躍」

3 年毎の同期会（第 12 回）が 2014 年 9 月 26 日、ホテル・グランヴィア京都で開かれます。13 クラスで毎回百数十人が出席。今回は特別に、京都疏水の開発者・田邊朔朗氏の孫に当たる田邊康雄氏（同期・東京在住の経営コンサルタント）がご祖父のことなどを講演されます。

皆の年齢が 78 歳前後となり、残念ながら同期会は今回で最後となる予定です。とはいえ、京都在住の人たちが多く、有志によるクラス会、ゴルフ同好会、音楽会、食事会、花見会は、まだまだ続きそうです。

他の学年同様、同期生は学術、医学、法制、政治、経済、芸能など各分野で活躍した人たちが無数にいますが、このうち現在もお活躍中で、京都を全国に知らしめているお二方を紹介します。

中川 聡七郎さん : 愛媛大学名誉教授で、農業経済関係の論文や著書多数で学術面の功績はいうまでもありません。奥様・名津さんの実家（長谷川家）は、村の庄屋として、今から 270 年前（1742 年）に京都東九条に建てられた古い農家住宅でした。

中川さんご夫妻は退職後、2 階建・床面積 369 平方メートルの古住宅の修復保存活動を開始、多額の資金を投じて 1 年がかりで修復されました。建物、庭園もさることながら、屋内からは、江戸から明治初期までのおびただしい数の文書、地図、書物、品物が見つかり、いずれも貴重な歴史的文物ばかりです。この長谷川家住宅は、国の有形文化財に登録されています。「歴史・文化・交流の家」と命名され、冬季を除いて土曜と日曜に開館されていますので、同窓の皆様もぜひ一度見学されることをお勧めします。（詳しくは同家のホームページをご覧ください。）

中西 健夫さん : 90 年近い歴史のある書肆（しよし）ナカニシヤは、以前は京都大学正門前の書店として有名でしたが、現在は一乗寺にビルをかまえて「ナカニシヤ出版」として、多数の学術本や教科書などを全国に向けて発信されています。その数は、かれこれ 2000 点にのぼるそうです。その中西さんが昨夏、自著『山の本をつくる』（288 ページ）を上梓されました。

ご本人は山登りが趣味で、山関係の本も30年にわたり百数十冊出版されています。その集大成として、関西著名登山家たちとの交流と思い出、ご自身のスイス・アルプス登山記を綴られ、昨秋、多数の新聞や雑誌に広く紹介されました。この本は、思いがけず、山仲間から山好きの皇太子の眼にとまり、皇太子も興味深く読まれた、と侍従の方から中西さんに電話があったそうです。(2014年6月記)

1956(昭和31)年3月卒:8期生 報告 上野 民夫

8期では3年毎に定期的同窓会を開催しているが、母校の校舎の全面改築が報道されたので、平成25年3月9日に校舎の見納め会を主催し、8期生118名のほか20名の他期同窓生が参集した。

当日は、前庭に集合し、講堂で藤井校長から挨拶と改築の見通しについて説明を受けた。続いて、筆者が鴨沂高校の現同窓会長を務めている関係から、改築に至る経緯、仮校舎への移転、埋蔵文化の発掘調査、新校舎の基本設計について同窓会が把握している情報を参加者一同に伝えた。その後、北運動場に残る体育館とプールを含めて、校舎とキャンパスを自由に見学した。

終了後に参加者の多くが「くに荘」に参集して旧交を温めたが、相国寺北の仮校舎で行われる教育活動に不安をいだきつつも、新校舎の完成祝賀や新生鴨沂高校の発展への期待などが寄せられた。昨年は、NHK大河ドラマ「八重の桜」や週刊エコノミストの“全国有名高校の人脈”で本校の伝統と歴史が紹介されたこともあって、母校への愛着と感慨を新たにし、正面の景観と講堂からの眺望が新校舎で再現されることを期待する声が多く、このことは同窓会から京都府教育庁への要望にも反映されている。

8期の同級生は今年11月20日(木)にウェスティン都ホテル京都で一同の喜寿を祝う。

1958(昭和33)年3月卒:10期生 報告 西村 伊久夫 「卒業後55年目の同窓会」

第10期卒業生は、3年ごとに同窓会を開催しています。第12回目に当たる今回は、我々が卒業して55年目の節目となりました。

同窓会は2013年7月24日に、京都駅前のホテルグランヴィア京都で開催されました。166名もの同窓生が参加し、恩師の浜田香代子先生をお招きしました。同窓会の前に、鴨沂高校の建て替えの報道があり、母校を訪ねる最後の機会でもありましたので、7月6日に見学会を催しました。

60名以上の参加者があり、副校長先生が案内され、学生時代にはなかなか入れない応接室や校長室に入り、「新英学校及び女紅場」という「八重の桜」にも関わりのある大きな額や、360度ぐると回る卒業生の集合写真を見たり、講堂では大変古いスタインウェイのグランドピアノが置いてあり、講堂の広さが大変大きなことを再確認しました。



第12回 鴨沂高校10期生同窓会 平成25年7月24日 於 ホテルグランヴィア京都

同窓生の数は確実に減っていきます。その現実を立て出席者を増やすのは各組二人ずつの幹事の熱意にかかってきます。今回の同窓会開催に当たって、何度か幹事会を行いました。ほとんど出席され、幹事のモチベーションが高かったのが印象的です。

新しく参加される方の発掘が必要です。欠席あるいは返事のない方でも、幹事の方から連絡して今回初めて参加され、これならばこれからも参加するという方が何名かおられました。

これからも同窓会を楽しむ方が一人でも増えられることを祈願しております。

1959(昭和34)年3月卒:11期生 報告 戸川 隆博

ヤンチャだった某君どうしてですか。共に校門をくぐり、共に巣立って50年余。同級会の初回ころは壮年だった私たちもおのおの生き方を模索しつつ航海を続けている。同級会は毎回出席の人、あんなにヤンチャだった人も顔見せてくれない、京都近辺に居住されながら便りのない人など千差万別です。前回もつと



2012年10月16日

鴨沂 三三会

於 京都ロイヤルホテル&スパ

早くから出てくればよかったという声もあった。

12クラス唯一の担任浜田先生〈旧姓有岡〉のご主人の体操の浜田先生の訃報を前回後の昨年耳にした。今は亡き友は学園生活を楽しんだ友人との再会を楽しみに毎回出席していたが彼の想いは叶わず他界した。

時間的に余裕が増えたためか出席者数は増えている。残念なことは疎遠孤独を望み、交流を断ち、老境隔世を求め進む友に歓談のひとつ時をお誘いしたい。

第13回三三会は平成26年10月14日(火)

12:00 京都ロイヤルホテル&スパで予定しています。

1960(昭和35)年3月卒:12期生 報告

高崎 肇

昭和35年(1960年)3月に卒業した私達の同窓会は、通常三年毎の計画で実施してきましたが、早期開催のご希望が多くあり、今回から二年毎とし第11回同窓会を平成25年11月2日、「ホテルグランビア京都 古今の間」にて盛大に挙行了しました。数えて卒業後53年目の再々・会。

今回の開催に当たりましては、胡井寛一郎幹事長、木村早苗事務局長の強いリーダーシップの下、両氏には事務全般大変お骨折りを頂き、開催することができました。

今田博也司会の下、卒業生611名の内、参加人数136名。物故者約60名。ご来賓は手塚晃先生と付添の奥様のみ。古希も過ぎた同級生は顔を合わせれば懐かしい青春時代にたちまち戻り、楽しいひと時を過ごしました。

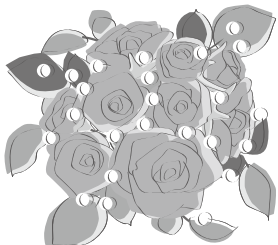
今なお現役でご活躍中は、高安文哉医師、水野武夫弁護士らと数少なくなりました。話題は、「誰彼が病気で悩み苦しんでいるとか、残念ながら亡くなったとか」、やはり健康に関する事柄が多く、改めて健康の大切さを痛感しました。今後、出席者は増えることがなく、減る一方は仕方がないことでしょう。

残された人生を元気に豊かに過ごすには、まず「健康」、ついで「老後の経済的な裏付け」、最後に「人生へのやる気」と言えるようです。式次第の最後は、32年前の初回発足時の奥田敏幹事長のスピーチがあり、「2020年の東京五輪の開催時には同窓生の皆さん元気に頑張りましょう」と力強いご挨拶がありました。

さて今回の開催に当たっては、各組2名の組幹事×13組=26名が集まって議論し、幹事会3回・反省会1回を持ち、会議後は必ず胡井幹事長のお気に入りの店で昼飯を食べながら学生時代に面識の薄かった級友とも懇談させて頂き、楽しいひと時を体験できました。胡井幹事長と木村事務局長のお心遣いに組幹事一同、感謝申し上げます。

次回の第12回同窓会は、木村早苗幹事長の下で平成27年11月12日に開催が予定されていると聞いています。出来る限り多数のご参加をお願いする次第です。

(平成26年5月14日記)



1961(昭和36)年3月卒:13期生 報告

中尾 雅明

古希記念同窓会の後、今年6月8日(日)2年ぶりに70歳台2回目の学年同窓会を、ウエスティン都ホテル京都「瑞穂ノ間」で開催しました。今回は、恩師山下俊正・浜田香代子両先生をお招きし、総勢159名が参加しにぎやかに開催しました。

今回は「母校の改築をみんなで見守ろう」をテーマにしました。そして昨年5月には、母校に世話役有志約70名が集まり校舎見学会を実施しました(講堂での記念写真参照)。そして今年の同窓会場に、その時撮影の母校の写真を展示し、幹事からの報告と完成イメージ図や予定図面などをプログラムに掲載し母校建て替えの情報を提供しました。

私たち13期生は13クラス総数612名(男380・女232名)でした。物故者74名(12%)・所在不明者等48名(8%)を除く490名に、開催年の年賀はがきで学年同窓会の予告をし、学年同窓会の案内も往復はがきでお知らせし、全国各地から400通(80%)を超える返信がよせられています。これらのメッセージは貴重な同窓生の情報として、全件を同窓会プログラム(A4版・44頁)に掲載し好評をえています。2年後の次回同窓会には、4年ぶりの同窓生名簿も引き続き発行の予定にしています。

今回は中尾雅明・宮崎保子・園井弘一・井上雅代の4名が代表幹事として協力させていただきました。

(2014年度代表幹事)



1963(昭和38)年3月卒:15期生 報告

登谷 直行

私たち15期生は、13クラス586名でした。

今年の6月14日に「からすま京都ホテル」で九回目の同窓会を開催しました。参加者は担任をしていたいた山下俊正先生と同級生122名の合わせて123名でした。

もともとは5年に1回開催としていましたが、今回を含め2回は3年毎に開いています。次回は2年後ということになりました。従来は秋に開いていたのですが、ホテルの予約が困難で、今年は6月開催ということになりました。そのためか、今回の参加者は前回よりも10名ほど少なくなりました。前回の参加者のう

ち 50 名弱が不参加でしたが、今回初めてとか久しぶりに参加した方も多く、次回の参加者はもっと多くなるのではないかと考えています。

開会してからは、自席を立てて久しぶりに会う同級生との会話が弾み、とても和やかに皆さんがすごしていたと思います。この調子なら、事前に準備していたアトラクションもやらないでもいいのではないかと思います。

閉会の前に校歌の斉唱をしましたが、そのために病床から駆けつけて、ご家族の協力も得ながら、指揮をしてくれた西川寛君の姿は、忘れられません。彼もまた、鴨沂高校での生活が素晴らしかったことを無言のうちに私たちに示してくれていたのだと思います。



1965 (昭和 40) 年 3 月卒 : 17 期生 報告 山岡 亮平

第 17 期卒恒例の同窓会はこれまではいつも、4 月の第 1 土曜日に桜満開の花見小路新橋の中華料理店「竹香」2 階で開催されてきたが、昨年度は手違いから第 1 日曜日になってしまった。しかし怪我の巧名かその方が人の集まりも良かったため以後第 1 日曜日に開催されることになった。

そこで今年は 4 月 6 日 (日曜日) 夕方 6 時より東京組の河野、由里の両君も迎えて総勢 34 名が集まり 9 時過ぎまでの 3 時間以上に渡り旧交を温めた。

(17 期卒業生の皆様でこの集まりをご存知なかった方は幹事の中村嘉次君に連絡を)

ちなみに関東地区でも数年に一度第 17 期の同窓会が開かれ 20 名以上の参加者がある。

(集合写真は昨年度のものである)



1966 (昭和 41) 年 3 月卒 : 18 期生 報告

小林 正雄 村井 優

18 期生は卒業後 45 年となる、去る平成 23 (2011) 年に第 5 回目の学年同窓会を、一次会を初めて昼間とし二次会は徒歩 5 分位で行ける会場も確保、二次会からの参加者を加え延べ 160 人の参加で開催した。今回の開催案内は新企画の会報「鴨沂 18」の創刊準備号で行い、次号からは有料の会員制度とし、卒業生 613 名の内 250 人余りの申込みの下、寄稿や近況報告などを交えて創刊号と第 2 号の発行をした。

校舎が改築されると聞き、平成 25 (2013) 年 6 月 8 日に見学会を開催した。京都在住の同期生を中心に遠くは東京からの同期生も含め正門前に 44 名が集合、簡単な注意事項・説明を聞きそれぞれ思い思いの場所へと移動。和室辺りでは日の暮れるまで「揚げばの山車作り」をやった思い出が甦り、またウィーンの森辺りでは学園祭のフォークダンス会場となり、甘酸っぱい思い出がある方も多いのでは！。私達にとっては思い出深い校舎の記憶は永遠です！

次回の第 6 回 18 期生同窓会は、平成 26 (2014) 年 9 月 21 日に開催決定、前述の「鴨沂 18」第 3 号で案内すべく、世話人も交代して新しい世話人会で準備しているところです。(2014 年 5 月 記)



1967 (昭和 42) 年 3 月卒 : 19 期生 報告

青木 栄子

「知ってました？」

私達 19 期会は、11 月になると七夕の織姫と彦星のごとく毎年集っています。

一昨年は校舎改装に先立っての学校見学 (日曜日にもかかわらず副校長先生が校舎の中や講堂、北運まで案内して下さいました)。くに荘での総会・懇親会の後、地元幹事さんの尽力により自治会館をお借りしてすべて持ち込みのコンパ形式で二次会を行い本当に学生時代に戻ったかのようなひと時を過ごしました。

昨年は「光悦」という市内の居酒屋風の店での開催でした。「一年ぶり」「わー久しぶり」「ごめん 誰やった」などいつもの会話が飛び交い、初めて参加された方もすぐに打ち解け、和気あいあいの会になりました。高校全体の同窓会の理事から校舎改築の進捗状況の報告もあり、建物が変わるだけではなく校風、生徒の気質等みな変わって行く様で、それも時代かなと思

います。

この会報で担当幹事が知ってました？と次のような文を載せてくれていました。

【鴨沂高校の教育目標と教育方針】

★教育目標★

世界平和を希求し、全ての人が幸福になりうる社会を目指して事実に基づいて心理を追求し、それに従って実践しようと努力する人間をつくる。

★教育方針★

1. 自発的・積極的に学習する態度を養い、基礎学力を培い、思考力を育成する。
2. 自治活動に進んで参加し、相互の人格を尊重し、正しい方法で討論して、その結果に基づき、責任をもって行動する習慣を養う。
3. 社会に対する関心を高め、批判的精神を育成する。
4. 勤労の誇りと喜びをもち、社会的活動に耐えうる体力を増進する。
5. 芸術的関心を深め、豊かな情操を養う。
6. 人間の尊厳という観点から、基本的人権についての科学的な認識を培う。

皆さん知っておられましたか？（19期会広報担当）

1968（昭和43）年3月卒：20期生 報告

岩月 道代（旧 棚田）

「魚の目に水見えず」

「そんな高校があるの？」と、友人に囲まれて聞かれたことを思い出す。昭和43年、鴨沂高校卒業後、東京で寮生活をしていた時のことである。そこには、全国から集まった寮生達がおり、それぞれの高校生活の話題で盛り上がっていた。

今でも忘れられないのは、ある県の話の中で、制服で通学校が分かり、駅のホームではレベルの高い順に一流校は一両目、次が二両目、三両目と乗る車両も違っていた。それが当たり前のような日常であったと。それに続いて他県の友人からも似た話を聞かされ、逆に私は驚いてしまった。このような雰囲気の中で鴨沂高校での学校生活を語っても信じてもらえず、当時、鴨沂高校が紹介されていた『教育の森』（毎日新聞社出版？）やアルバムを見せて話したことを思い出す。

私は、前述のように歪んだ価値観を植え付けられることもなく、毎日クラブや行事に明け暮れ、高校生活を謳歌していたことが、人生の中で如何に貴重な時期を送っていたのかと、卒業後に知ることとなった。正に、『魚の目に水見えず』の思いである。

近年、『5教科の評価＝人間の評価』であるかのような錯覚に陥りそうな社会情勢のなかで、私達が育てられた鴨沂を振り返った時、教科教育は勿論のこと、先を見通した『人間を育てる』ことに視点を当てた教育であったと思われる。青年前期の多感な私達は、その中で教科以外の大切なことを学び、ものの見方・考え方を身につけ、大人への基礎づくりができたと思う。諸先輩、先生方が築きあげられた鴨沂の歴史の中で育ったことを誇りに思う。

1969（昭和44）年3月卒：21期生 報告

宮川 恭子

「鴨沂の魅力」

21期生の同窓会が2年に1回開かれるようになって、かれこれ20年以上の歳月が流れた。最近では約80名が集い、今年は8月30日（土）に開催される。出席すると、還暦を過ぎているという年齢を感じさせないエネルギーをもらう気がするのは私だけだろうか。

鴨沂の魅力は何だろう。一言では表現できないが、多様な人間の集まりで、その個性を互いに認め合ってきたところではないだろうか。互いに言いたいことを言い合い、好きなことをしていたし、それが当たり前だと思っていた。在学中はそのことをさほど意識しないで過ごしていたが、離れてみるとその良さを感じた。

私個人に限って言えば、鴨沂の3年間で、画期的に自分自身が変わっていったと思う。人それぞれに素晴らしいところがいっぱいあり、自分にはないものを持っている。人間ってなんてすてきなのだらうと感じたことが、以後の人生にも影響を与えた。クラブ活動を通して親しい友達もできて、今でも声をかけ合って、年に数回出合っている。

昨年、校舎の建て替えを新聞紙上で知り、急にクラブの仲間に連絡を取り、10名程で見学をさせていだいた。在学中は何とも思わなかった廊下や階段の一つ一つがいとおしく感じられた。単なるノスタルジーではなく、今の自分を作ってくれた鴨沂の教育に感謝している。（平成26年5月吉日 筆）



1970（昭和45）年3月卒：22期生 報告

岩崎 裕美

高校時代の私の夢は、アナウンサーになることでした。KBS京都に入社して理想を実現したものの、35歳の時に大きな壁にぶつかりました。言葉を消費するばかりで、新しい言葉を入れることを疎かにしていた私は、空っぽになっている自分に気づいたのです。

流暢にしゃべれても、自分の考えや生きて行くうえの哲学を持ち合わせていなかったのです。それからは「思いこみやこだわり」の壁を破って動きだし、本を読むことを始めました。「何でも知っている」と思っていた私が、「何も知らなかった」と知った35歳、人生のターニングポイントでした。

フリーアナウンサーとして独立後、全国の行政機関から要請を受けて日本中を回り外から京都をみる事が出来たおかげで、自分が京都でやりたいことがわかり、2004年NPO法人京小町踊り子隊プロジェクトを立ち上げたのです。

「新しい京のまちおこし、人おこし、着物おこし」若い女性たちと着物振興・京都PR隊として活動しながら、世界に飛び出しています。そして「京都観光おもてなし大使」に任命され、「お客様が何を望んでいるのか。心を感じ取ることを大切にしたい。」と日々京都のためにがんばっています。また22期の同窓会は昨年で6回目でしたが、すべて私が司会を務めてきました。



1971 (昭和46) 年3月卒: 23期生 報告 中田 節 (ノブ)

今から3年前の夏、学年同窓会に出席して、受付で40年ぶりに会った級友から名前を呼びかけられた途端、あの時代のあの世界へタイム・スリップしたような錯覚を覚えました。しかもそれは実に気持ちのいいもので、それ以来、同窓会にハマってしまって、幹事会の一員として企画する側に加えてもらいました。

我が第23期同窓生は、去年の5月に全員が還暦を迎えたことを祝して記念同窓会を催し、約100名の出席を得ました。企画はテーブル対抗の腕相撲大会と合唱コンクール。

合唱のお題が決まった途端に、各テーブルが飲食もそっちのけで、夢中になって振り付けをして練習し始めたのには、正直驚きました。その姿は微笑ましくもありながら、企画した側としては感動すら覚えたものです。その時の一体感は得難いものであり、私にとっては宝物でした。

聞けば今年の春には、解体される講堂での最後の卒業式が、生徒たちの力強い運動によって実現したとのこと。流石鴨沂と、陰ながら誇らしく思いました。これからもこのような精神のDNAを絶やさないでいてもらいたいものです。



1973 (昭和48) 年3月卒: 25期生 報告

南 寛

「時が溶け、蘇る記憶」

昨年7月14日に、一木夫妻のご尽力で校舎見学会を開催することができました。高校との日程調整から見学後の昼食会、記念写真の送付まで全てお世話になりました。感謝。

当日、集合時間に正門前に行ってみると、40名ほどの人が集まっています。もう一度校舎を見ておきたい思いの熱さにびっくり。最初、顔を見ても誰だか思い出せず、「こいつ俺より老けとるな」とか、「誰か思い出さへんけど若くて美しい人やな」とか、勝手な観察を楽しんでいましたが、慣れるに従い40年の時が溶けて埋もれていた記憶が蘇り、現実の顔と過去の顔が一致しました。

懐かしい校舎を歩きながら、タイムスリップした女性陣のおしゃべりは尽きることはありません。私は時々、の周りにいる人と当たり障りのない話をしていました。いつまでたってもビジネスライクな対応しかできない、定年退職後の典型的なダメ男像が予感されます。

今年は鴨沂高校全体の同窓会が11月9日にあります。この集まりを活用して25期初同窓会の打ち合わせをしたいと思います。楽しい同窓会にするための知恵と力をお貸しください。参加できない人は、Eメールをください、打ち合わせ状況をお知らせします。

minami 3@mbox.kyoto-inet.or.jp



1974 (昭和49) 年3月卒: 26期生 報告

天川 明久

第26期(昭和49年3月卒業)の同窓会は、平成10年から本格的に始まりました。

60歳の還暦を目指して、現在までに6回の開催を重ねてまいりました。昨年の同窓会では、校舎の建替えが話題となり、久しぶりに見学に行ったこと、自由の校風、食堂でもう一度食事がしたかったなど、懐かしい話が爛漫と咲き誇りました。また、2名の初めての同窓会参加もあり、華やいだ同窓会となりました。

鴨沂高校卒業生の職場の後輩にも高校への思いを聞くと、時代を超えて同窓会で語り合った同じ感慨を語ってくれたことに、改めて「伝統」の文字が心に刻

まれました。

社会では、団塊の世代に象徴される大量退職が始まって7年が経過しました。青年の育成、人材の育成が課題となり、様々な形で取組まれています。

一方、私たちも子育ての時代を終え、介護や孫の面倒を見る時期に入り、定年・第二の人生など大きな節目を迎えるとともに、いよいよ、それぞれの生き方や生き様が問われる季節になったと実感しています。

ともあれ、前回で同窓会幹事を降りることとなりましたが、平成28年に行われる同窓会が盛会に行われるよう支援したいと思っています。また、奇しき縁の同窓生の集いを大切に、人生の総仕上げに立向かいしたいと思います。



1977 (昭和52) 年3月卒：29期生 報告

安西 博

ええ～！ラストシーン変更するの？

あかんやん！「ト書きには『ソーニャを抱きしめる』って書いてあるやん！」

えっ？「やっぱり恥ずかしい！」そうなんや……。 「でもさあ、3年間舞台に出て来てさあ思うにゃけどな、これはもう、他の表現では弱い気がすんにゃけど！」

しかし、主役のラスコリニコフの淡い思いは、抵抗



3年8組 第1位 (罪と罰)

空しく駆逐され、無残にも撃沈されるのでした。本番では、「罪への許しを乞い、手を握りしめながら、二人は愛を誓い合う。」と言う事になりました。けれども、それだけでも、女生徒の涙を誘い、講堂全体を感動の渦に巻き込みながらのラストシーンになりました。

これは38年前、鴨沂高校で行われた春の演劇コンクールで上演された、3年8組によるドストエフスキー原作の「罪と罰」の裏話です。オリジナルで脚本を完成させ、キャストは肝いりの7人に、教育実習の先生を巻き込んだのでした。私は主役のラスコリニコフを演じ、笑いあり、涙ありの超大作でした。

ポスターをはじめ各賞を総なめにしたあの感動は、今も、昨日のように思い出すことが出来ます。何事も一生懸命にやること、それが大事。また、それをやらせてくれた校風が鴨沂高校にはありました。現役諸君達のさらなる活躍に期待を寄せながらペンを置きます。

1978 (昭和53) 年3月卒：30期生 報告

小山 義和

校舎建て替えなどの話が持ち上がり、校舎見学会を兼ねて久しぶりに学年全体の同窓会をということで、昨年の4月29日に10数年ぶりの同期会を開催させていただきました。

校舎見学会では懐かしい校舎を見せていただき、あちらこちらで写真撮影の姿が見受けられました。3階の講堂から見る風景が妙に新鮮だったのが印象的でした。

その後、場所を京都ブライトンホテルに移して同窓会を開催いたしました。担任の先生方は半分以上が他界されており、ご存命でも参加がかなわない先生もおられましたが、3名にご参加いただく事が出来ました。

関東方面はもとより、遠くは北海道からこのために駆け付けてくれた方もおられ、総勢100名の同窓会になりました。卒業以来35年ぶりという再会も多数あったのですが、一瞬で当時の関係に戻れたような気分でした。

30期は定期的に開催をしていないのですが、新校舎完成の頃にまた校舎見学会を兼ねて同窓会を開催しようという事になり、次回幹事団を選出の後、中締めと致しました。



次回開催時にはもっと多くの同窓生が集まればと思っています。

1982（昭和57）年3月卒：34期生 報告
福田 智子

「第69期入学式に出席して」

桜が満開の4月、私の娘は京都府立鴨沂高等学校第69期の新生として、入学式を迎えました。

本年度（2014年）の入試より、京都市南部地域に住まいを構える中学生にも鴨沂高校を志望することができるようになり、私の娘にも受験をする機会ができました。

母親が京都府立京都第一高等女学校の最後の卒業生であり3期卒、私は34期、そして娘が69期の入学生となりましたことを、大変感慨深く感じておりました。

本年より、京都文化の講座が開催されるということで、どのようなカリキュラムが組まれるのか、大変興味深く、楽しみにしております。

現在までに、京都府の教育長でおられる松栄堂 畑正高様のご講義や、葵祭の講義、またお祭りで使用されている「葵」を育てることを行ったと承っております。

母校のホームページにも掲載されておりますが、文化財の発掘作業も体験するようです。

恐らく、次に校舎を建て替えるころには、私たちはこの世におりませんので、この貴重な体験をのちに活かしてほしいと考えております。

娘の世代では、なかなか興味を持つことが難しいことも多いようですが、永い歴史の中で築かれた、文化やならわしを、知識として、教養として、高めていてもらいたいと思っております。

これからの3年間、娘とともに学校行事等に積極的に参加、協力をしたいと思います。

2006（平成18）年3月卒：58期生 報告
末松 めぐみ

鴨沂同窓生の皆様こんにちは。鴨沂関係で文章を書くのは卒業式の答辞以来。30分も読み上げる長い答辞は鴨沂くらいなもんらしい。データが飛んで朝6時までPCと格闘した日々。嗚呼、懐かしや。

卒業後は音大に進み、なんやかんやで劇団京芸に入り、なんやかんやで退団し、なんやかんやで音楽講師、兼、フリーランスのプレイヤー、兼、左京めぐみ名義でシンガーソングライターとして活動中。

現在ライブハウス「都雅都雅」で月一ライブを主催しており、鴨沂同期のギタリスト、磯部友里やINTEGLIGHTというバンド（こちらベースとボーカルが鴨沂同期）に出演していただいた。ちなみに1st ミニアルバムの写真は鴨沂の旧体育館で、大先輩のプロカメラウーマンに撮影していただいた。繋がる鴨沂ラリー。

建て替え問題や制服。鴨沂はこれからどうなるのかわからないが、寄せていただいた昨年度の卒業式で、私も振袖着たかった、という一年生の声も聞き、これからの鴨沂生も自分が思う自由のため、不条理に見え

ることと戦っていけると素敵だと思う。

私も鴨沂で培った（筈の）生き様を今見せねばいかんと思っています。



2011（平成23）年3月卒：63期生 報告
佐々木 祐

第63期卒業生の佐々木です。現在は京都市役所都市計画局住宅室住宅政策課に勤務しております。初めての人事異動に戸惑いながら、日々過ごしています。

前職場の北区役所とはまるで正反対の仕事になっていて、毎日が勉強です。4年前に卒業してからというもの、勉強することはほとんどなかったため、改めて高校時代を思い出しました。この4年間で鴨沂高校の状態もかなり変化を遂げていて驚いています。

仕事柄、新聞を毎日読んでおりましたが、関連の記事を見るたびに考えていました。「今後、鴨沂高校はどうなるのだろう。紫野グラウンドは？校舎は？また、在校生は？」

特に、紫野グラウンドは、異動前の北区役所の隣ということから、よくグラウンドを覗いておりましたが、鉄骨が運び込まれ、新たな学校が建ちはじめている光景を目の当たりにし、「体育祭をしたグラウンドはもう無くなるんやなあ」と寂しく思いました。

私が思っていたことは、他の同級生も感じていたらしく、久々に会う同級生もまず、鴨沂のことについて話してくれます。みんな思っていることは同じということがよく分かりました。（笑）それだけ鴨沂のことが好きなんだと改めて実感しました。

校舎も建替える方向という話を聞いております。私の学んだ校舎がなくなることは、寂しい限りですが、新しい校舎に変わり、さらに躍進されるであろう、未来の鴨沂高校生に期待しております。併せて、鴨沂高校の方針「自治」についても、生徒自治会を先頭に、一人ひとりが考えられるよう頑張りたいと思います。

今後も一人の卒業生として、がんばります。そして今後の鴨沂高校を見守っていきます。



事務局だより

新校舎落成記念事業 募金趣意について

来る 2016 年秋期には鴨沂高校が全面改築されて、新装なった校舎での教育活動が始まります。今回の改築は、旧校舎が 1933 年 3 月に落成して以来 80 年目の大事業です。母校は戦後の学制改革による新教育制度の導入によって 1948 年 4 月に発足し、以来 2 万 5 千名を超える卒業生は、鴨沂高校で培われた自由の精神を発揮して地元、関西、日本各地において社会に多大の貢献をしてきました。

この度、新校舎の落成とともに鴨沂高校は日本文化の伝統を継承し、世界的視野のもとに活躍する逸材を育むための拠点校に生まれ変わります。同窓会では母校の永続的な発展を祈念して、教育環境の充実、生徒の学力と健康の増進、在校生と卒業生との親睦を図り同窓会活動を充実させるべく記念事業を行うことを決定しました。記念事業の内容は下記の通りですが、何卒この趣旨にご賛同いただき、同窓会会員各位に格別のご高配のもとにご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

会 長 上野 民夫 (8 期) 理事長 山崎 賢二 (20 期)

記 念 事 業 次 第

1. 新校舎落成記念式典等の開催 (見学会、講演会他)
2. 旧校舎の資料目録の作成と保存
3. 母校の教育環境の充実 (設備・備品整備の支援他)
4. 同窓会活動の充実 (同窓会報記念号発刊他)

募 金 要 項

1. 募金目標総額 2,000 万円
2. 募金対象者 同窓会員など
3. 募金の金額 1 口 2,000 円 (何口でも結構です)
4. 寄付金のご送金方法 本誌同封別紙の趣意書にある払込票または下欄表記のゆうちょ銀行口座へお振込下さい。

(本項は別紙にても、ご案内しております)

会費や寄付金のご送金は次の口座をご利用下さい

ゆうちょ銀行 口座記号番号 01010-1-55572
加入者名 鴨沂高等学校同窓会

同 窓 会 役 員		
2014 (平成 26) 年 3 月現在		
会 長	上 野 民 夫	(8 期)
副 会 長	猪 熊 兼 勝	(8 期)
〃	西 尾 齊 二	(10 期)
理 事 長	山 崎 賢 二	(20 期)
会 計	南 井 寛 二	(25 期)
〃	横 井 猛 彦	(30 期)
監 事	戸 川 隆 博	(11 期)
〃	廣 瀬 ちづる	(21 期)
理 事	木 村 要	(1 期)
〃	仲 谷 喬	(3 期)
〃	藤 野 英 雄	(4 期)
〃	今 岡 公 榮	(7 期)
〃	黒 川 令 三	(8 期)
〃	小 西 逞 夫	(10 期)
〃	水 野 武 夫	(12 期)
〃	川 島 康 之	(13 期)
〃	木 村 正	(14 期)
〃	山 本 早 苗	(14 期)
〃	谷 口 明日香	(15 期)
〃	佐 川 公 也	(16 期)
〃	山 岡 亮 平	(17 期)
〃 *	太 田 雅 彦	(18 期)
〃 *	青 木 榮 子	(19 期)
〃	鈴 木 正 穂	(19 期)
〃 *	金 子 久美子	(20 期)
〃	佐々木 佳 継	(21 期)
〃	安 田 行 秀	(22 期)
〃	前 田 次 世	(23 期)
〃	藤 井 義 昭	(24 期)
〃	天 川 明 久	(26 期)
〃	加 藤 譲	(28 期)
〃	奥 田 美智子	(29 期)
〃	石 井 崇 夫	(31 期)
〃 *	福 田 智 子	(34 期)
〃	柿 阪 宜 孝	(35 期)
〃	大 石 昌 彦	(40 期)
〃	鈴 木 穂 人	(47 期)
〃	森 木 吉 人	(48 期)
特別顧問	岡 井 満	(8 期)
顧 問	藤 井 直	(校長)

(* は事務局担当理事)

京都府立鴨沂高校同窓会 会計報告

2011 (平成 23) 年 4 月 1 日 ~ 2014 (平成 26) 年 3 月 31 日 (3 年間) (単位: 円)

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額
前 期 繰 越 金	13,116,418	13,116,418
年 会 費 収 入	4,000,000	4,081,000
寄 付 収 入	20,000	0
総 会 収 入	1,200,000	846,000
預 貯 金 利 息	16,000	1,435
預貯金利息 (特)	0	803
名 簿 等 収 入	10,000	4,000
合 計	18,362,418	18,049,656

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額
総 会 費	1,700,000	1,452,370
会 報 製 作 発 送 費	2,800,000	2,847,303
会 議 費	300,000	358,562
通 信 費	150,000	238,999
雑 費	200,000	595,062
施 設 使 用 料	360,000	360,000
奨 学 金	1,296,000	1,296,000
支 部 活 動 助 成 金	180,000	180,000
活 動 維 持 費	1,430,000	1,487,306
記 念 事 業 費 (特)	0	61,196
小 計	8,416,000	8,876,798
次 期 繰 越 金	9,946,418	9,172,858
合 計	18,362,418	18,049,656

次期繰越金明細

科 目	金 額
通 常 貯 金	922,753
振 替 口 座	205,680
小 口 現 金	104,818
定 期 定 額 貯 金	5,000,000
小 計 ①	6,233,251
特 別 会 計 貯 金	2,900,803
小 口 現 金 (特)	38,804
小 計 (特) ②	2,939,607
合 計 ① + ②	9,172,858

(特) は校舎改築記念事業の特別会計科目の意。平成 25 年度理事会にて記念事業準備用支出を承認。

京都府立鴨沂高等学校同窓会 会則

第1条 (名 称)

本会は、京都府立鴨沂高等学校同窓会と称する。

第2条 (本 部)

本会は、本部を京都市上京区荒神町の鴨沂会館内に置く。

第3条 (目 的)

本会は、会員相互の親睦をはかり、母校の教育への後援を行い、もって公共の福祉に寄与することを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員相互の親睦をはかること。
- (2) 母校の教育環境の充実に関すること。
- (3) 生徒の福祉と健康の増進に関すること。
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要なこと。

第5条 (会 員)

本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 母校卒業生、および母校に在学している、または、在籍したことのある者。
- (2) 特別会員 現、旧職員。

第6条 (総 会)

本会は、3年ごとに会長の招集により定時総会を開くほか、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

2. 総会では、事業の経過および計画、会計収支決算および予算、会則の改廃ならびに役員人事の報告を行う。
3. 総会の議長は、会長または理事会が指名した理事がつとめる。
4. 総会において議決を行う場合は、出席者の過半数により決定する。

第7条 (年 度)

本会の事業および会計年度は、4月1日から翌年の3月末日までとし、監事による会計監査を経て、総会において会計収支報告を行う。

第8条 (役員および会務)

本会は、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名 理事の決議により正会員の中から選出する。
会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長 若干名 理事の中から会長が委嘱する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故がある時は、これを代行する。
- (3) 理事長 1名 理事の互選により選出する。
理事長は、会務の執行を推進する。
- (4) 会 計 2名 理事の中から推薦により会長が委嘱する。
会計は、本会の経理を担当する。
- (5) 理 事 20名以上40名以内 正会員の中から推薦により会長が委嘱する。理事は、理事会を構成し、事業の推進をはかり、目的の達成に協力する。
- (6) 監 事 2名以上3名以内 理事の決議により正会員の中から選出し、会長が委嘱する。監事は、本会の会計を監査する。会計監査は、中間と期末に行う。
- (7) 顧 問 1名 母校の現校長に委嘱する。

第9条 (任 期)

役員の任期は3年とし、再選を妨げない。ただし、次の役員が選任されるまでは、その会務にあたる。

第10条 (理事会)

本会は、適時に理事会を開催し、次の事項を議決する。

- (1) 事業の経過および計画
- (2) 会計収支決算および予算
- (3) 総会の開催
- (4) 役員の承認
- (5) 会則の改廃
- (6) その他、必要な事項
2. 理事会の議長は、理事長または理事会が指名した理事がつとめる。

3. 理事会の招集は、会日の2週間前までに、議事の主旨を示して会長または理事長により行う。ただし、監事が必要と認めた時、または理事の二分の一以上の要求がある時は、その代表ができる。

4. 理事会の議決は、監事を除く議決権総数の過半数により決定する。

5. 理事会は、本会の活動情報を広報するとともに会員の意見集約につとめる。

6. 会長または理事長は、会務に関して専門的な問題を処理するために、若干名の理事による専門委員会を設置することができる。

第11条 (常任理事会)

理事長は、理事の中から若干名の「常任理事」を指名して常任理事会を招集し、会務に関する協議および執行にあたらせることができる。

第12条 (会費等)

本会の運営に必要な費用は、入会金、会費、寄付金および雑収入をもってこれにあてる。

2. 入会金は金2,000円とし、入学時に納入する。

3. 正会員は、年会費として、金2,000円を納入するものとする。ただし、在学中は、これを免除する。

第13条 (経 費)

本会の役員は、その業務執行につき必要な費用を、活動費として受け取ることができる。

第14条 (資金の管理と運用)

理事長は、本会の資金管理に関しては会員全員の共有資産であることに鑑み、その残高の確認には、特段の留意をしなければならない。

2. 理事長ならびに会計は、本会の資産運用に関しては元本が保証された安全かつ有利なものを選択するように留意しなければならない。

第15条 (議事録)

総会、理事会の議長は、議事の経過の要領と結果を記載した議事録を作成し、署名押印して理事全員に開示し、関係資料と共に本部に保管する。

第16条 (細 則)

本会則の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

第17条 (支 部)

本会は、理事会の承認により、支部を設置することができる。

2. 支部は、責任者を定めて、支部会員を掌握しなければならない。

3. 支部の維持や運営に対する助成は、理事会の承認を経て行うことができる。

第18条 (変更届)

会員は、住所や姓名などに異動があったときは、そのつど本会に報告するものとする。

第19条 (個人情報)

理事は、会員の情報を「個人情報の保護に関する法律」の規定に従い、慎重に取り扱わなければならない。

第20条 (会則外事項)

この会則に定めのない事項については、他の同窓会慣習や法令の定めるところによる。

付 則

1. 本会則は、昭和25年5月21日より施行する。

2. 昭和33年10月11日 一部改正

3. 平成 8年11月18日 一部改正

4. 平成11年11月14日 一部改正

5. 平成20年10月 8日 一部改正

6. 平成23年 9月16日 一部改正

7. 平成26年 7月 5日 一部改正

2014（平成26）年度 京都府立鴨沂高等学校同窓会 総会開催のご案内

日時：2014（平成26）年11月9日（日） 15時30分～ 受付

会場：ウェスティン都ホテル京都 山城の間（東館2F）

京都市東山区三条けあげ（Tel 075-771-7111）

15:30～ 受付

16:00～ 第1部 総会議事

17:00～ 第2部 マリオネットのライブ

18:30～ 第3部 懇親会

会費 8,000 円
※当日お支払い下さい。



※出欠のご回答について

総会は3年ごとの開催予定です。この機会にぜひご出席ください。

なお、準備の都合上、10月10日までに同封の専用はがきにて出欠の回答をお願いします。

（恐縮ですが52円切手を貼って下さい）

マリオネット プロフィール

日本におけるポルトガルギターのパイオニア・湯浅隆と、マンドリン奏者・吉田剛士によるアコースティックユニット。独特のオリジナル音楽の創作を中心に、ファドやポピュラー音楽まで幅広い音楽活動を行なっている。映画音楽、TVドラマ・ドキュメンタリー、TV番組テーマ曲、CM音楽、バレエ・演劇などの劇中音楽を数多く担当すると共に、TV・ラジオのBGMとしても数多く使われている。'95年のデビューCD『ぼるとがる幻想』は3万枚のセールスを突破し、インストゥルメンタルとしては異例のヒットを記録。以降、計14枚のアルバムを発表。'98年に開催されたリスボン国際博覧会 EXPO'98 の日本館主催ジャパンデーのイベントに日本代表で出演。また、同博覧会の「Festival de Guitarra Portuguesa na Expo'98」に日本人では唯一招待、2010年より湯浅が「マカオ観光局音楽大使」となるなど、国際舞台も含めて益々の活躍が期待されている。2013年『第6回石見銀山文化賞・特別賞』受賞。

